

ふすまの



なかむら たける
中村 尊

ボランティア活動の意味を調べてみますと、「行政システムになり機能や役割を自発性・無償性・利他性・先駆性を持ち行う活動」とあります。実費弁済や謝礼のある有償ボランティアや、純粹な自主性でなく、勧誘など他の動因による場合もありますが、いずれにせよ、利他的で奉仕的な活動です。同時に、ボランティアに参加する人の自己実現の一面も持っていることが知られています。「ボランティアしてやっている」という心情ではなく、「ボランティアは人のためにも、自分のためにも」という意識が必要だと思えます。

九州北部豪雨災害の復旧ボランティア活動に、フリースクールの子ども・OB、ひきこもりから抜

ボランティアに参加して

し、自分にできることをやればいいさ」と勧誘されて参加した人もいました。初日は資材整理。その日の復旧作業を終えた人が持ち帰ったスコップやバケツ、土のう袋などの片付けです。「できない」というほど難しい作業ではありませんが、人手が要ります。していくうちに工夫する意識が芽生えます。2日目は、被災現場で床下の土砂をく

み取り、土のう袋に詰めて崩れた崖に積み上げる作業。体力は必要です。しかし、必要であれば湧いてくるのですね。出会いもあります。被災地ボランティアに慣れた人からいろんなことを教わり、覚え、褒められています。現場では、不登校とかひきこもっているとか関係ありません。他の参加者から「気が利いている子たちです」と言われ、うれしく思いました。現場でそんなことが必要かということは、社会に出るとどんなことを求められるかに通じます。そんなことを子どもたちと一緒に学ばせていただきました。被災された方々に感謝されつつ土砂を運ぶ子どもたちに頼もしさを感じました。人に喜んでいただくことで自分が成長できる、ボランティアにはそんな良さがありますね。(県子ども若者総合相談センター長、フリースクール代表)